悲しい花火

ねこまくら

戦争を知らない私には
爆撃の轟音にしか聞こえない
美しい光のあと追うように
悲しくとどろく
その瞬間にどこかでまた
尊い命たちが
花火のひとひらになるのかと
失われた命を
美しい光に乗せて
光が星になるというのだろうかと
無心のまま
花火を見ることのできる喜びを
まわりの人々と分かちあえずに
背を向ける
ますます激しく爆音が
悲惨な映像になって私の背後を襲う
逃げたい
走って逃げたい
逃げることのできるうちに
逃げることのできない人をおもいながら
逃げる

こんな自分も悲しくて
自分からも逃げたくなる
何も考えず
なにも見ず
見ても考えず
風に流されるまま
重力に任せたまま
落ちるべきところに堕ちるのだろう
燃えかすのように
そんなの嫌だ
戦争は嫌だ

優しい猿

優しい人になりたいけれど
優しい人になれないのは
優しくないからなのではなく
優しくするやりかたがわからない
がんばれという言葉しかでてこないので
これ以上どうやってがんばるのかと反論されて
逃げ帰ってしまうだけ
言葉を知らないので
言葉が足りずに傷つけて
何も言わずに立ち去っては

冷たい人だとなじられる
優しくされた記憶はあるけれど
同じやりかた同じ言葉で
手を差し伸べたところで
パズルのピースは見当違い
いっそのこと
誰にもかかわることをせず
独りを決め込む
旅先ではうまくいくんだ
道端で困っている人も
助けることができるんだ
やっかいなのは

言葉を交わさねばならない人か
もうそろそろ
孤高を決め込むのが賢いようで
視線を外に振り向けず
冷たい人と覚悟を決めて
見ざる言わざる聞かざると
私は猿になる
心根優しい猿になる

◇

あざとい

たとえば詩を書き手紙を書き
ブログやもろもろＳＮＳや
ありのままの私を描こうとしても
そこには悲しいあざとい心
どこまでが真実で
どこまでが嘘っぱち
おのれでさえもわからない
私はいったい誰なのか
私を名乗る私の言葉
私はワタシとワタクシと
きのう得たワタクシメが
混在し合って私になる
かくしてあざとい私がいる